

「懐かしい匂い……海に似てる？  
前の黒い水とは違うものみたい……」

噴出す黒い水の異変。

一度は解決したかに見えたそれが

幻想郷に再び起きていた。

霧の湖から流れてくる水が黒く

澱んでいたのだ。

私は状況を極めるため

この場所に調査に来ていた。

「上流の山の水は正常……」

となると原因はこの湖のどこかに……」

遠くの方に意識を向けていたのもあって

私は足元に忍び寄っていたそれに

気が付くのが遅れた。

うわっ

びっくりした…

イカ  
の  
海魔？





これまた  
懐かしい顔！

ちよつと  
嬉しいかも

でもスキンシップは  
それぐらいにして  
くれないかな？

ちよつと  
何するのさー！

うっ

動けない!?

こいつらの  
腕力忘れてた……！



メ…ス…  
雌…女…!

次ナル器…

穢<sup>工</sup>魔<sup>マ</sup>…

果テタイ…

知<sup>チ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>知<sup>チ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>知<sup>チ</sup>ヲ<sup>ヲ</sup>

抱エキレス…

情動…

穢<sup>工</sup>し…

我が墓標…

ハヤク…



何この気配!?

まるで怨霊に  
憑りつかれた  
みたいなの!  
!?

触手が  
入って…っ

やめてっ

そこはダメ  
だつてば！

ズ  
ズ  
ズ…





奥…

モット深ク…

オカ…ス

侵ス…

繋ガル…

ム…チゅ…

グ…ちゅ…

犯ス!





…人ツタ

我ヲ捧ゲル  
祭壇…

人ツタ…

墓標…

廻リ着イタ…

注ギ込ム…

終着…





嘘……!?!?

子宮まで  
入ってきてる!?

それにコイツ  
さつきから何を  
言ってる……

オオオオオオ

この女ヲ……!

次代ノ  
穢魔ニ……!

全テ……

注ギコム

くわん

らめ

果テル!

最期ノ  
快樂ヲ……!



気持ちいい♡

なにこれ♡

子宮疼い  
てっ♡

頭がピンク  
色にっ♡

ぐわわ  
ちゅ

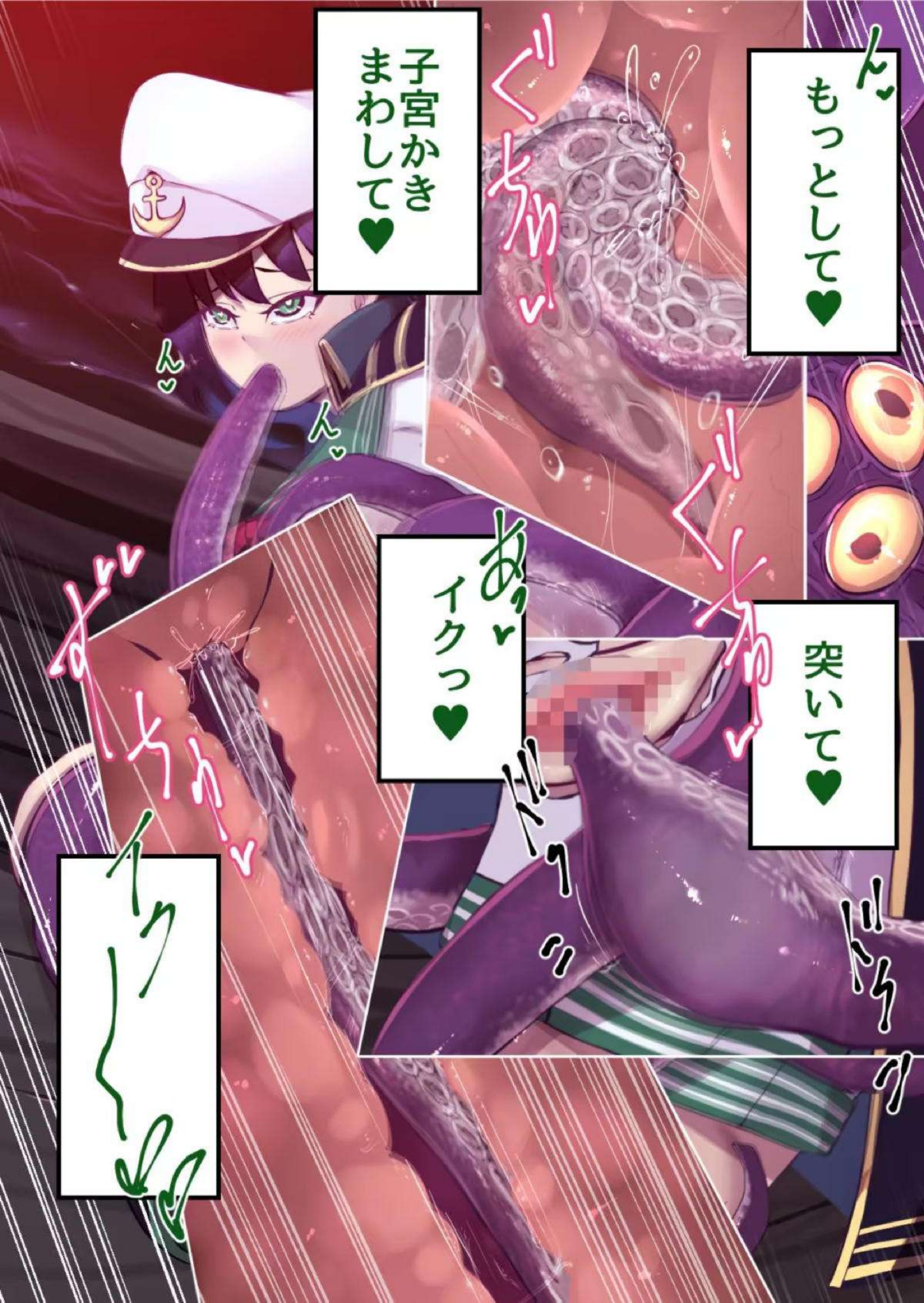
ん  
もっとして♡

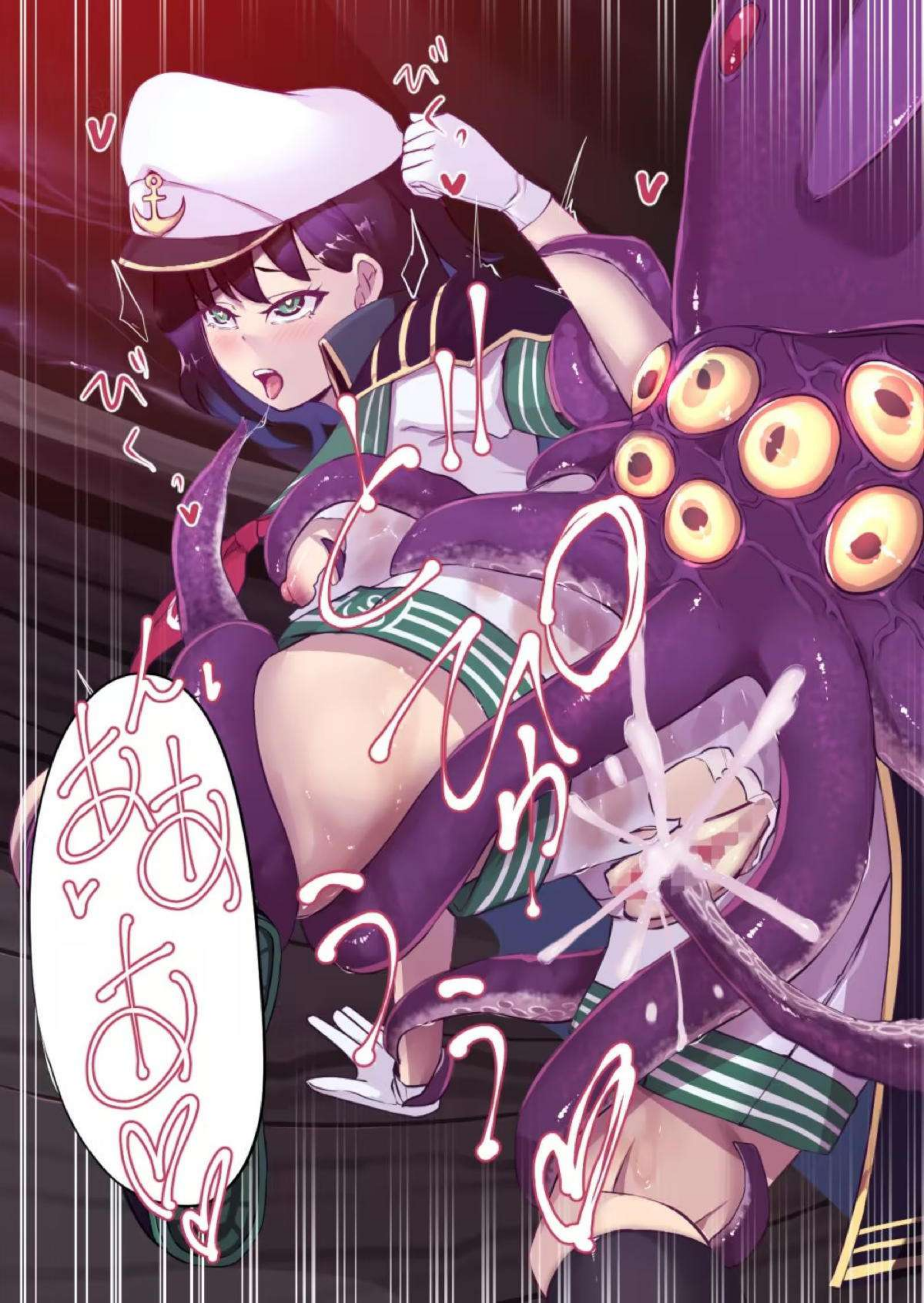
子宮かき  
まわして♡

突いて♡

あゝ  
イクっ♡

イク  
〜  
〜  
〜





はなな  
私は何を…

はなな

んんん  
自分から求める  
なんて…

とっ

っ

っ  
♡

うそ……

なんで  
精液が……？

それに子宮に  
何か出されてる……

こいつらの  
性交って  
確か……

イカの性交は精子の詰まった袋、  
精莖せいぎょうを腕を使って渡すものだ。

人の様に互いの性器を結合する  
生態はしていいない。

人の姿を得たならいざ知らず、  
妖怪化したただけでここまで  
生態が変わるものだろうか？

だいたい私が簡単に乱れて  
しまったたのも何かおかしい……



オオオオオオオ...

搾りト  
ラレル...

絶頂ノママ  
逝ク...

キモチイイ...

身体ガ解ケ  
テイク...

崩レル...

キモチイイ...

キモチイイ...



何が起こって  
いるの？

こいつの身体…

崩壊していく？

なにつ♡

私の中に入つて  
くるつ♡

カと一緒にい♡

底なしの欲望が  
渦巻いてつ♡

ズ  
ズ



そうか〜いっつ♡

こんなものにも  
憑かれていたのね♡

情欲  
穢れの塊っ♡

それでも一生で  
抱えていい量  
じゃない♡

くっくっ  
ずゅん

くっくっ  
ずゅん

こんなのに  
憑かれたら♡

淫魔の類に  
成り果てるっ♡

だめっ♡

おまんこ疼いて  
手が止まんないっ♡

ぐっ  
ぐっ  
ぐっ  
ぐっ



私の中に植え付けられて

いたのは精莢せいぎょうの塊だった。



クーン

クーン

イカいかの精莢せいぎょうは弾丸だ。  
内容物を射出しメスの身体に  
突き刺して付着させる。





それが今

私の中で爆ぜた

すばい♡

子宮に精子  
突き刺さってる♡

私の身体に  
受精してる♡

私の身体と  
同化始めてるっ♡

ムムムム

♡♡♡♡♡

ーっになろう♡

もうどうなっても  
いいの♡

だからもっと  
快樂を♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

溺れるっ♡

カッ

ハッ

〇

...

〇

ハッ

快樂の海にっ♡

ハッ

もっと沈めて♡

二度と浮き上がれない♡

情欲の水底へっ♡

ハッ

ク

ハッ



♡♡♡♡♡




弱れちゃった♡

恥ずかしい♡

舟幽霊なの♡

羞恥で濡れて  
きちやう♡

んっ...



イカ海魔と一つになつた私は  
黒い水の正体にたどり着いた。  
それはあのイカがまき散らした墨だつた。

淡水では生きられなかつたアレは、  
生存のため・に周辺の水を海水の様に  
変えていた。

あの海魔はもういない。

じきに水は元に戻る。


そう……水だけは。

来てください♡

私の♡♡♡

くはぁ♡

男を沈めたくて洪水を  
起こしてるんです♡



私は人里に戻ると、一人の男の家に  
上がり込み誘惑した。  
本能に支配されている実感がある。

だが、もう止められない

止まらない。

止める気もない。

私はただ子宮から来る命令に従って  
男の怒張した肉棒を迎え入れた。

あっ♡

これっ♡

ずっとこれ  
が欲し  
かったん  
です♡



この男には私の精莢を突き刺している。  
精莢せいきやうから這い出した精子は男を浸食して  
徐々に私の船員眷属へと改造する。

浸食が始まると理性を失い、価値観を変質させる。  
さぞ私は、魅力的なメスに見えていたことだろう。

そして穴を見せつけられこの通り♡  
腰を振るだけの猿♡  
いや、この精莢と同じ♡  
精を放つだけの器官の出来上がりです♡

いいですよ  
お兄さん♡

その調子で  
もつと突いて  
ください♡

もうすぐ捕まえ  
ますから♡



捕まえました♡

おこめ  
おにい

あ



なんだこれ!?

何か絡み  
ついて...!



どうぞですか  
私の子宮♡

イカめたいに触手で  
獲物を捕まえて♡

お兄さんを  
吸い尽くすまで♡

絶対に離さない  
捕食器官ですよ♡

無数の突起がっ

チンポを  
刺激してツ

あ…  
あ…あ…あ…

わかりますか♡

イカの吸盤は縁にある  
歯で獲物を引っかける  
るんです♡



私のそれは傷つけない  
程度にコリコリしてて♡

射精を促すためだけに  
進化してるんですよ♡



もうだめだ！

で  
射精る……！

きゅ♡  
きゅ♡  
きゅ♡

快樂の海♡

私の中に沈めて  
あげます♡





私の中で  
膣内に  
溺れ射精して  
てっ  
てっ  
♡



かたしん  
いたしん

かたしん  
いたしん

搾り…  
とられる！

離してくれ！

これ以上は  
出ない…！

びゅる  
びゅる  
♡



逃げないで  
ください♡

まだ出せ  
ますよ♡

スル  
ン

全部♡

私が呑む込んで  
あげますから♡

と…  
とまららない…

何を…  
吸われて…

き…

キモチ…  
イ…イ…



そう♡  
全部です♡

私の子宮が欲している♡  
愛の蜜が男を沈めようと  
とめどなく溢れている♡

あなたの身も心、魂♡  
そして愚かな欲望も♡

全てを胎に呑み込んで、私は  
より淫らで蠱惑的な魔性になる♡

私という女に溺れてください♡

快樂の海に沈め♡



い  
ち  
♡

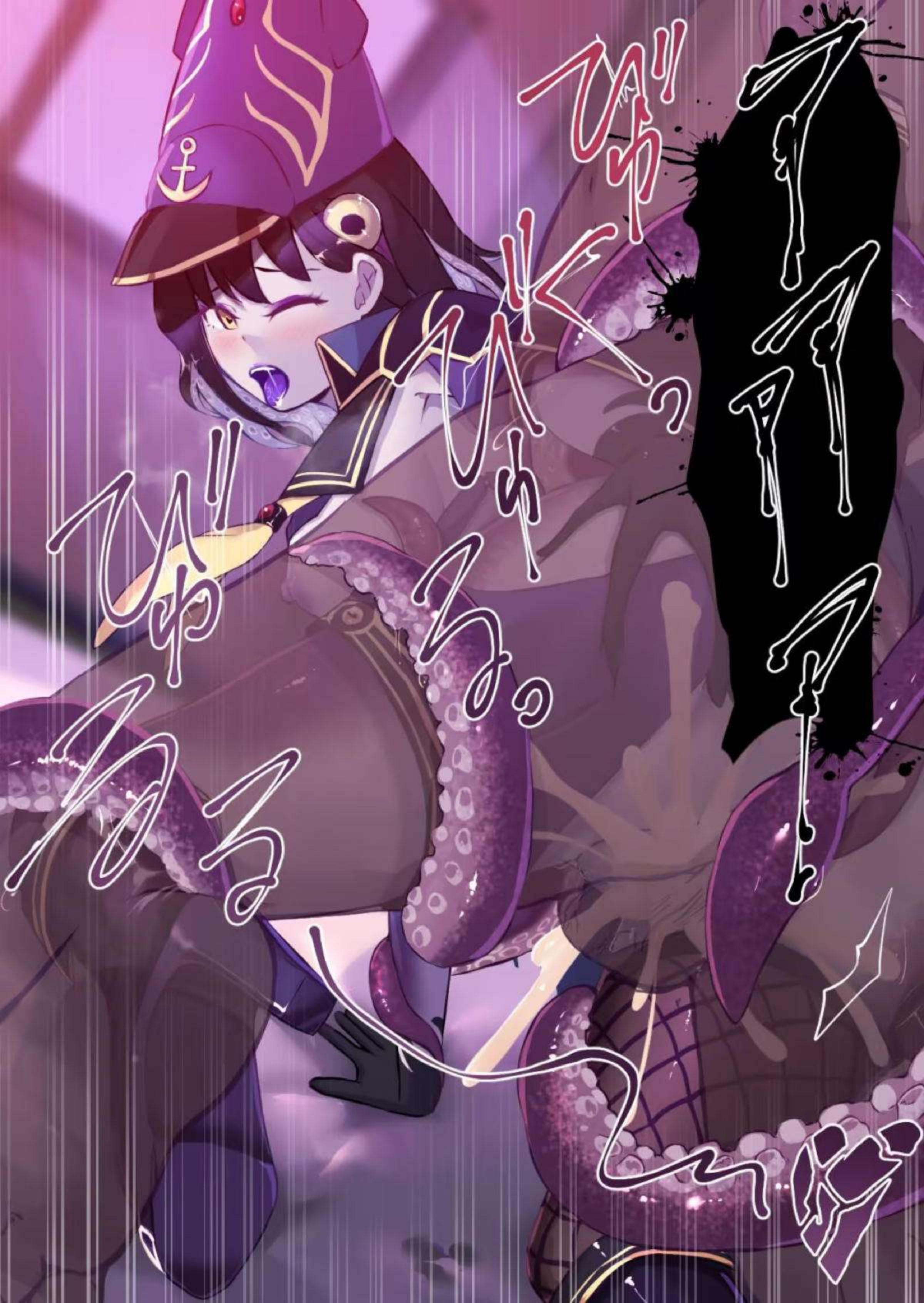
い  
ち  
♡

逝  
け  
♡  
♡  
♡

い  
ち  
♡

い  
ち  
♡

い  
ち  
♡



ご馳走様です♡

171  
3.0  
ふっ♡

快樂の海での  
溺死♡

いかがでしたか♡

これで♡

あなたは私の  
眷属  
船員です♡

ちゅるる

男の侵食が急速に進み異形化していく。  
死骸から蘇り、海魔となつた者は私の仲間だ。

今の私は欲望のまま快楽を貪る穢魔。  
しかし変わり果てても舟幽霊だつた。  
仲間を増やすために人を溺死させずには  
いられない。

肉壺に溢れる蜜が、また洪水を引き起こす。  
次の男を誘い、その魂を飲み込むために。

































